

# 跡見玉枝

跡見玉枝（一八五九〜一九四三）は、従姉の跡見花蹊について四条派を学び、後に長谷川玉峰、望月玉泉に画の指導を受け、また国学者でもあり桜花画家でもあった宮崎玉緒に学んで、明治から昭和期に活躍した桜の画家として知られる。京都高等女学校、京都府画学校、跡見学校（現跡見女子大学）、共立女子職業学校等で子女の教育に当たりながら、日本美術協会展覧会をはじめとする様々な展覧会、博覧会に出品して創作活動も行った。

玉枝は、明治二十六年（一八九三）には明治天皇第八皇女允子内親王の新御殿襖絵等を制作、同三十年にはその御用掛となった。また、明治二十七年の大婚二十五年に際しては「桜花百種 二巻」を献上、昭和五年には「御国の花香」という玉緒の和歌と玉枝の桜図の画帖を皇太后に献上、昭和八年より宮内省の依頼で御苑の桜の写生を行い、同十八年には昭和天皇第一皇女成子内親王の依頼で桜花の大幅を制作して献上する等、皇室とも縁の深い画家であった。特に、女子教育に尽力したこともあってか、昭憲皇太后、貞明皇后、そして香淳皇后と、明治から昭和期にかけての歴代皇后との交流があった。

96

## 桜図色紙

大正〜昭和前期

玉枝による五枚の色紙で、各図裏面に玉枝によって何処の何という桜かを記載した紙札が貼り付けられている。



鎌倉翁桜



楼門御衣黄桜



岡山菊桜



印度ひまらや桜



植物園寒桜

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 香淳皇后の御絵と画伯たち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 43

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年三月二十七日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections